

「段階を踏んで言語活動へとつなげ、指導目標へとせまる」

学習指導の実践的研究

～表現力を高めるための学習指導の工夫～

(中学1年 国語科 単元名 「文章名人 書くプロセス3」 全4時間)

留萌市立北光中学校 伊東裕紀子

1 はじめに

(1) 単元について

中学校1年の「書くこと」に関する単元として、この「文章名人」ではいくつかのプロセス（Ⅰ課題設定・取材，Ⅱ構成，Ⅲ記述，Ⅳ推敲，Ⅴ交流）に分けて、文章の書き方を学習することになっている。本教材は、芸術作品の鑑賞文を書くことを通して「Ⅲ記述」を中心に学習するものであり、学習指導要領の「B 書くこと」の〔B(1)ウ〕「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」が指導事項として設定されている。

絵画や音楽、彫刻や建築物などを含め、幅広く考えることができる「鑑賞」とは、表現の仕方、内包されている意思などについて、多様な角度から光を当てて、そのよさを見極めたり味わったりすることである。したがって、「鑑賞したことを文章に書く」時には、対象や素材の表現の仕方、作り手の思いや見方、作品から受けた印象や感動などについて触れることが大切である。本教材では、絵画から受けた印象が、絵画の中のような表現から生まれたのかを考え、表現する活動を通して、「根拠を明確にして自分の考えや気持ちを述べる力」を身に付けることをねらいとしている。

2 研究の視点

(1) 指導計画の工夫

生徒はこれまで、弁論や生活作文を書く取組において、課題設定や構成の工夫について学習を深め、主に自らの体験を根拠にして意見や感想を述べてきた。また、文学作品の読み取りの中では、登場人物の言動を取り上げ、その理由に説得力をもたせる根拠として本文の記述に注目し、文章にまとめる活動を経験した。しかし、自分の気持ちが、どういう要因によってそう感じるのか、それを具体的に説明する学習は本教材が初めてであった。また、音楽科や美術科などでも鑑賞文を書く機会があったが、一言感想程度の取組にとどまっていた。

本教材では、単元を貫く言語活動として、画商になって絵画のよさを引き出す活動を設定し、イラストや芸術作品を見て鑑賞文にまとめる活動を行った。鑑賞文は「芸術作品から受けた感動を、他の人にわかりやすく伝えるための文章」であるため、独りよがりな表現にとどまらず、読み手を意識して表現を磨くことができると考えたためである。

これまで、読み取った文章をもとにして考えを説明する活動には取り組んできたが、文章以外から情報を得て考えを述べるためには、どのような観点で情報を読み取るべきかを知る必要があると考えた。作品鑑賞に慣れていない生徒が多いと考えられるので、初めから有名な芸術作品を鑑賞するのではなく、タッチを様々に変えた一枚のイラスト

を比較することを通して、鑑賞の観点や注目すべき点に生徒自らが気づき、自分の考えや気持ちを表現できるようにした。そして身に付けた技術を使い、最終的には自分の考えや気持ちを、根拠をはっきりさせて表現する力を身に付けさせたいと考えた。

(2) 考え、表現する場の工夫

導入段階では、生徒が普段見慣れているアニメイラスト風の作品を例に出して、自由な感想をもたせるとともに、鑑賞する際の様々な観点到に気付かせるようにした。また、絵に対する簡単な鑑賞文を自分の言葉で繰り返し表現していくことで、自分の気持ちをどのような根拠をもとに述べていけばよいのかを実感させ、身に付けさせようとした。

学習の最後には1つの芸術作品を複数で鑑賞し、交流・批評し合う活動を行った。それによって、「なぜそう思ったかの根拠が示されているか」「自分の思いが説得力をもって相手に伝わっているか」を確認し、より効果的に伝えるための表現方法を考えることができるようにした。

3 単元の目標

【書くこと】

- ・芸術作品を見て感じた自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書くことができる。

4 指導計画

時数	主な学習内容と生徒の様子	【評価規準】と視点
1	<p>○イラストを見て，第一印象を發表しよう。</p> <div data-bbox="271 380 1117 627" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>かっこいい！ キラキラしている！ こういう絵は好き！ ○○の絵に似ている！</p> </div> <div data-bbox="271 660 1101 795" style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>絵に対する印象は，どんな違いから生まれるのかを考えよう。</p> </div> <p>○初めのイラストと，様々に変化させたイラストを比べ，絵を見る際の観点を知る。</p> <div data-bbox="327 929 1069 1220" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>色彩 タッチ 人物のポーズ 雰囲気 写実 背景 光と影 テーマ 構図 線</p> </div>	<div data-bbox="1157 492 1428 616" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 20px;"> <p>視点1 指導計画の工夫</p> </div> <p>【関心・意欲・態度】 絵を見て，様々な観点から意見をもととしてしている。（発表，ワークシート）</p>
2 (本時)	<p>○イラストから感じたことを，説明する文を書こう。</p> <div data-bbox="287 1344 1093 1467" style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>観点をもとにして，自分の感じたことに対する根拠を述べよう。</p> </div> <p>○イラストについて，「よいと思ったところ」「印象に残ったところ」「感じたこと」を，前時の観点をもとに，根拠を明らかにしてミニ鑑賞文を書く。</p> <div data-bbox="279 1646 1125 1859" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>色々な観点でイラストを読み取ればいいんだな…。 イラストの何を見て，自分はこう感じたんだろう…。 つなぐ言葉や文末表現を効果的に使おう…。</p> </div> <p>○ミニ鑑賞文を交流し，どのような表現が優れているのかを知る。</p>	<div data-bbox="1157 1299 1428 1456" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 20px;"> <p>視点2 考え，表現する場の工夫</p> </div> <p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを，根拠を明確にして書くことができる。（付箋）</p>

3	<p>○芸術作品の鑑賞文を書く。</p> <p>画商になって、絵のよさを引き出そう。</p> <p>○2つの芸術作品を、2グループに分かれて鑑賞する。</p> <p>読み手にわかりやすい表現にしよう…。 つなぐ言葉や文末表現を効果的に使おう…。 この絵は、ここがいいな…。アピールしよう！</p> <p>○できた鑑賞文は匿名で回収し、次時に批評を行うことを予告する。</p>	<p>視点1 指導計画の工夫</p> <p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書くことができる。 (ワークシート)</p>
4	<p>○鑑賞文を批評する。</p> <p>鑑賞文を読み、どのような表現が作品のよさを引き出しているのか考えよう。</p> <p>○全員の鑑賞文に対し、よい表現と改善点をメモし、伝える。 ○更に、自分とは別グループの鑑賞文には、「どの鑑賞文が一番絵の魅力を引き出していたか」を選ぶ。 ○全体でよい表現を交流する。</p>	<p>視点2 考え、表現する場の工夫</p> <p>【関心・意欲・態度】 仲間の鑑賞文を読み、そのよさや改善点を考えている。 (発表、ワークシート)</p>

5 本時の実際

(1) 本時の目標

- ◎様々な観点をもとに、自分の思いや考えを、根拠を明確にして書くことができる。
【書くこと】

(2) 本時の展開 (2 / 4)

	主な学習活動 (◎教師の働きかけ・生徒の活動)	【評価規準】と視点, 支援○
課題把握 見通し	<p>自分の感じたことを明らかにして、ミニ鑑賞文を書こう</p> <p>◎前時の学習を振り返り、絵を見る観点を確認した。</p>  <p>色彩 タッチ 人物のポーズ 霧団気 写実 背景 光と影 テーマ 構図 線</p>	<p>視点1 【指導計画の工夫】 イラストから自分たちが読み取った観点を、文章表現の基礎として確認させた。</p>

- ・各自に配られたイラストを見て、「自分の考えたこと、印象に残ったこと」と「その根拠となる部分」を付箋に書き表した。
- ◎あまり好みではないイラストでも、よい所や印象的な部分を見つけるように指示した。



考えと根拠がかみ合っているかな？

つなぎの言葉は正しいかな？



どんな観点に注目するかな？

この絵を見て女の子が少しさびしそうだと思いました。それは、背景の色や、周りの田んぼが女の子を少しはげましているように見えたからです。女の子は、猫と歩きながらリコーダーをふいている姿が、背景とすごくあっていてと思いました。

自力解決

交流

- ◎ミニ鑑賞文を交流し、適切な表現を確認した。

夢に出てきそうな絵だと思った。それは、背景と人の色が合っていてきれいだから。また、絵の中の人が持っている本から出てきたような感じの背景だと思った。なぜなら、現実ではこんなにきれいなものは無いから。



「背景」に注目しているね。理由を表すつなぎの言葉が、しっかり使われています。

【書くこと】

自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書いている。(付箋)

視点2

【考え、表現する場の工夫】
観点をもとに、絵画のどの部分に注目すれば、自分の考えの根拠となるのかを考えさせた。

- 根拠が見つけれない生徒には、絵を見た感想がどの観点によるものかを確認させ、絵の特徴を言葉で表せるように支援した。

	<ul style="list-style-type: none"> イラストに4分間で1個以上のミニ鑑賞文を書き、次の人に回した。 (3回繰り返した) 	<p>視点2</p> <p>【考え、表現する場の工夫】 多数の絵について考えることで、自分が気に入っている絵以外でもよさを見つけ出し、考えを深めようとする態度を身に付けさせようとした。</p>
<p>振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> イラストを始めの人に返し、友達のミニ鑑賞文の優れた点を紹介した。 <div data-bbox="252 638 641 922" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="667 586 1026 943" data-label="Text"> <p>「夕方のオレンジなどの暖色が少女と猫を照らして、切なげな雰囲気が出ている」という表現が、絵のよさをとてもよく表していると思います。</p> </div> <p>◎本時の学習を生かして、次時は絵の魅力を引き出す鑑賞文を書くことを予告した。</p>	

6 成果と課題

(1) 指導計画の工夫

〔成果〕

- 前時に数枚のイラストを見比べることで、自分もった感想が絵のどのような観点によるものかに気付き、その体験を通して学んだことが、本時の様々なイラストの鑑賞文を多様な観点に注目して書くという活動に活かされていた。
- 普段からなじみ深いタッチのイラストを用意したことで生徒の興味・関心を高めることができ、有名な芸術作品に対して感じる「難解さ」をあまり感じさせずに、素直な表現を引き出すことに繋がった。

〔課題〕

- 単元を貫く言語活動である「画商になって絵のよさを引き出そう」という課題の提示を、第1時に行わずに指導を続けていた。本単元で「根拠を明確にして文章を書く」理由は、自分の思いを読み手に伝えるということにあるので、相手意識を高めるためには言語活動の提示をすべきだった。

(2) 考え、表現する場の工夫

〔成果〕

- ・4分ごとにイラストを交換してミニ鑑賞文を繰り返し書いたことで、生徒はイラストによって様々な観点を使い分けながら、どのような形式で鑑賞文を書けばよいのかを身に付けることができた。
- ・使用した付箋が、生徒にとって抵抗感のない分量の鑑賞文を書くための、適切な大きさであった。
- ・次時の「画商になって絵のよさを引き出す活動」では、普段接することの少ない日本画や浮世絵を扱ったが、生徒はこれまで学習してきた観点をもとに絵の特徴を次々に見つけ出し、文章に表すことができていた。



〔課題〕

- ・交流時に、教師が観点に沿って生徒の鑑賞文を取り上げ評価したが、その後繰り返し鑑賞文を書く中で観点を根拠とした感想の羅列が多くなるなど、表現に幅を持たせることができなかつた。より表現力を高めるためには、グループ交流で「なぜこの鑑賞文は優れているのか」について他の生徒の作品から柔軟に学びとることも必要であった。
- ・次時の「画商になって絵のよさを引き出す活動」の中でも、それぞれの観点の関わりが希薄で、単に「よいところを列挙した感想文」になる生徒が多かつた。複数の観点到繋がりを持たせ一つの文章にまとめる力の育成も必要であった。

